



夢を形にする力が あります



奈良市立
若草中学校出身
大工

橋本 佳祐

【木造のすばらしい住宅をお客さまに提供する】

大工の仕事を始めて6年目。見習いの最初は、現場の掃除と鉋砥ぎ※1、片付け等を徹底して教えられます。すばらしい仕事をする人は、道具も大切にすし、整理整頓もできます。建築部門・大工のやりがいは、作品が後世まで形に残ること、それから20業種以上の業者が協力して作り上げる作業であることです。一人ではなく、力を合わせないとできない仕事です。

【夢を見つけたきっかけ】

私は、サラリーマンの家の長男に生まれました。将来のことは不安で、長男であるし、家を盛り立てて両親を安心させたい気持ちでいました。両親から「手に職をつけた方がよい」と言われ、自分で考え、見つけた道です。大工になろうと決めたのは高校三年生。その後、実技も教えてくれる建築技能学校に入学。社長や親方（棟梁）に憧れて入社し働きながら3年間通った大工塾※2。こんな風に歩んできました。大工の修行は厳しく、大工塾を卒業したのは半分の人数でした。

技能を身につけ一人前の大工になりたいので、今、夢中で仕事をしています。気がついたら6年が経っていました。落ち込むことはないです。自分では、目指す技術の50%にしか到達できていないと思っています。

大工にとって刃物を砥ぐのは大切な作業です。最初はそれがうまくできなくて苦労しました。今困っていることといえば、新しく出てくる製品や工法を理解し覚えていかないといけないことです。少しずつ知識と技量が身につくと、未熟な部分が逆に分かってくる。

【社長からの一言】

橋本君は匠の技をもつ棟梁とペアで仕事をしています。厳しい世界ですが、棟梁の技術を踏襲する大工になってほしいと思います。彼の意気込みが棟梁に伝わるのか、相性がよいのか、いい関係です。家造りにはチームワークが大切です。例えば上棟（棟上げ）は十数人くらいのチームで、しかも気心の知れたメンバーでなければできない、家造りの最も大切な工程です。

※1 鉋砥ぎ＝プロとして木を削る道具の鉋を砥ぐのは最初の難関作業。大工にとって物を研ぐのは大切な作業です。

※2 大工塾＝国家プロジェクトで職人を養成する大工育成塾。伝統工法を継承する棟梁のもとで、技術を身につけ、教室講義で理論も学ぶ。

取材協力先

徳矢住建株式会社 【三笠中学校区】

木の香る健康な住まいを提案している。創業60年、一級建築士事務所の徳矢住建は製材から木造住宅の新築、リフォームの工事まで、一貫して手がけている地域密着型工務店。

中学生へのゲストティーチャー講演や夏休み親子木工教室など、社会貢献事業を多数実施している。

君たちにできること

今現在、本当になりたい自分をもっている人は少ないかもしれませんが、あせらず、いろいろな趣味などに挑戦して興味のあることや、好きなことを見つけてほしいと思います。

